

京都市の青野浩美さんが闘病記出版

気管切開しました 歌手辞めません



神経の難病で気管を切開した後も、ソプラノ歌手として美しい歌声を披露し続けている京都市在住の青野浩美さんの著書「わたくし前例をつくりません」写真Ⅱが刊行された。発病からいくつもの困難を乗り越えて声を取り戻し、歌手活動を再開するまでの歩みがつづられている。

青野さんは、同志社女子大音楽学会（頒啓会）特別専修生として練習に励んでいた2006年末、突然倒れたという。最初は寝たきりに近い状態だったが、リハビリを重ねて車いすで動けるように。
だが、倒れた翌年から原因不明の無呼吸発作に襲われるようになり、発作が起

いつかオーケストラをバックに

きた時すぐに人工呼吸器を取り付けられるよう08年に気管を切開した。

本では、医師から手術前に「以前と同じように話すことも難しい」と告げられたものの声を出すための「スピーチカニューレ」という道具をいくつも試して声を出せるようになった経験、歌うための姿勢や息継ぎを工夫して現在は全国での講演や演奏など積極的に活動していることなどが書かれている。現在の夢は、オーケストラの演奏をバックに歌うことという。

痰の吸引など「医療的ケア」についても言及。日常生活を送るために必要なケアに対する理解が深まるよう訴えている。

クリエイツかもがわ刊、1890円。

介護保険法改正で介護職などが4月から「たん吸引」や「胃ろう」などの医療的ケアを実施できるようになったことに伴う課題解決策を考えるシンポジウムが、27日午後1時15分から京都市南区の京都テルサで開かれる。

医療的ケアを考えるシンポジウム
27日に京都テルサ

これからどうすんねん、医療的ケア法制度」と題して基調講演した後、介護職や看護師、支援学校教員ら6人が現場の事例を報告し、討論する。
定員は150人で、参加費は一般1500円。申し込みは同ネット075(693)6604か、メール mcnct-info@mcnet.or.jp。